

平成 26 年度 第 1 回 山口県地域コラボ会 開催報告

日時 平成 26 年 6 月 20 日 (金) 14:00~19:00 (情報交換会含む)

場所 山口県立大学 看護キャンパス

I 次第

■山口県地域コラボ会 (6 号館 F204 大教室)

1. 開会挨拶
江里 健輔 (公立大学法人山口県立大学 理事長)
2. 趣旨説明
平尾 元彦 氏 (山口大学 学生支援センター 教授)
3. 「インターンシップ活用術」
原 正紀 氏 (㈱クオリティ・オブ・ライフ 代表取締役)
4. 「新しいインターンシップの形「魅力発信グランプリ」」
葛西 宜江 氏 ((一社) 中国地域ニュービジネス協議会 事務局 次長)
5. 「インターンシップ実践報告—受入側の立場から—」
福岡 雅之 氏 (山口大学 創基 200 周年事業推進課 課長)
6. 「インターンシップで見えてきた「働く」ということ」
大工 恵子 (山口県立大学 看護栄養学部 栄養学科 4 年生)
7. 閉会挨拶
長坂 祐二 (山口県立大学 学長)

■情報交換会 (5 号館 E104 会議室)

1. 開会挨拶
松田 理 (山口県立大学 学生支援部長)
2. 閉会挨拶
人見 英里 (山口県立大学 共通教育機構長)

II 出席機関等

総出席者 40名

内 訳 県内企業・各機関 19名
県外企業・各機関 4名
県内大学 17名

県内企業・各機関（13）

| | |
|---------------|----------------------|
| 山口労働局 | 山口経済同友会 |
| 山口県 | 山口県中小企業団体中央会 |
| 山口県消費生活センター | 山口県インターンシップ推進協議会 |
| 山口県若者就職支援センター | (福)恩賜財団 済生会山口地域ケアセンタ |
| 山口市 | (株)ビジネスアシスト |
| 山口商工会議所 | 専門学校Y I Cグループ |
| 山口県経営者協会 | |

県外企業・各機関（3）

| | |
|--------------------|-----------|
| (株)クオリティ・オブ・ライフ | L L P人材開発 |
| (一社)中国地域ニュービジネス協議会 | |

県内大学（4）

| | |
|------|--------|
| 山口大学 | 梅光学院大学 |
| 徳山大学 | 山口県立大学 |

(順不同)

III コラボ会の概要

6月20日（金）、山口県立大学看護キャンパスにおいて「平成26年度第1回山口県地域コラボ会」を開催いたしました。県内外の各機関や企業、経済団体、大学等から総勢40名の方々にお集まりいただきました。官公庁およびその関連機関から多数ご出席いただいた点が、今回のコラボ会の特徴でした。

開会后、平尾元彦氏（山口大学 学生支援センター 教授）より「中国・四国地区協働型人材育成ネットワーク（CoHRD）」の目的と地域コラボ会の趣旨について説明があり、大学が産業界や各機関にお願いする形ではなく、双方が一緒に人材育成に取り組む必要性が述べられました。

続いて、原正紀氏（(株)クオリティ・オブ・ライフ 代表取締役）より「インターンシップ活用術」と題してご講演いただきました。連携校で実施された学生アンケート調査の結果から、インターンシップの必要性が述べられました。そのうえで、インターンシップの全国的な動向と、学生・大学・受入事業所の3者にとって意義あるインターンシップのあり方について、具体例を交えてお話しいただきました。



平尾元彦 氏
(山口大学 学生支援センター 教授)



原正紀 氏
((株)クオリティ・オブ・ライフ 代表取締役)

休憩の後、葛西宜江氏（(一社)中国地域ニュービジネス協議会 事務局 次長）より、「インターンシップの新しい形「魅力発信グランプリ」」と題してご講演いただきました。大学生が企業へ取材訪問を行い、その企業の魅力を発見し、プレゼンテーションを通じて発信するという新たなインターンシップの形態が紹介されました。

次に、福岡雅之氏（山口大学 創基200周年事業推進課 課長）より、山口大学で実施された「学内インターンシップ」について実践報告をしていただきました。学生の受け入れ方を工夫することで、受入部署の若手職員のモチベーションが向上したとの成果をご報告いただきました。



葛西宜江 氏
((一社)中国地域ニュービジネス協議会 事務局 次長)



福岡雅之 氏
(山口大学 創基200周年事業推進課 課長)

最後に、大工恵子さん（山口県立大学 4年生）が、昨年度に参加した山口県庁でのインターンシップを振り返りながら、学生の視点から体験報告を行いました。インターンシップを通じて、大学にいただけでは気づかなかった県庁での仕事の幅広さや、業務遂行のための「真のコミュニケーション能力」の必要性を理解したことなどが報告されました。また、インターンシップでの経験はその後の大学での専門的な学習・研究にも活かされており、キャリア展望の明確化にもつながったということでした。



大工恵子 さん
（山口県立大学 4年生）



会場全体の様子

以上の各講演・報告に対しては、フロアから多くの質問が寄せられ、大変充実した会となりました。閉会后、参加者の方々から「インターンシップについて固定的に考えていた部分があったが、実施形態について柔軟に考えられるようになった」「インターンシップのプログラムを開発するのに、非常に参考になった」などの感想をいただきました。

コラボ会の後に開催された情報交換会にも大勢の参加があり、意見交換やコミュニケーションが活発に行われている様子が見受けられました。盛会のうちに終了となりましたが、総じて大学と各機関・各企業との今後の連携や協働、インターンシップの活性化や高度化を期待できるものでした。

ご多忙にもかかわらずご講演くださいました講師の皆様、ご出席いただきました皆様に、厚く御礼申し上げます。